

コラム JICA 研修を通じた中央アジア・コーカスの道路沿線開発への国際貢献

幹線道路の整備は物流や観光振興など国の発展に大きく寄与する一方、幹線道路の整備だけでは沿線の地域活性化にはつながらない事例も多くあります。

中央アジア・コーカス地域でも、諸外国からの支援により国際幹線道路網の整備が進んでいるものの、地方部の沿道地域の貧困は深刻で道路整備の効果を地域住民の生活向上に直接つなげる沿線地域の開発が強く求められています。

そこで、道路インフラを生かした地域開発手法の成功例とされる「道の駅」などのノウハウを有する我が国では、JICA を通じた国際協力として毎年中央アジア・コーカス地域を対象に「幹線道路沿線地域開発研修」を行っています（26年度は7カ国13名）。本研修は、気候風土や地域特性が似ている北海道をフィールドとして、地域住民の所得向上や都市部との格差解消を目的に、「道の駅」などの道路インフラを活用した地場産業の振興や観光、物流など、多面的に幹線道路沿線の地域開発手法を学ぶものです。

地域景観ユニットでは、本研修について「道の駅による地域振興」や「道路を活用した観光」に関する講義の講師をはじめ、研修リーダーとして全体の講義内容や視察先、その講師の選定のほか、自国でのアクションプラン作成の指導など本研修に全面的に協力しています。これらには「道の駅」や「道路の観光利活用」に関するこれまでの研究が活用されています。

研修生の帰国後には、自国での「道の駅」が計画されるなど、幹線道路を生かした地域振興について具体の成果が期待されています。



写真-1 現地技術指導



写真-2 各国のアクションプランの指導



写真-3 JICA 国際研修閉講式